

行事等

- 12月2日：賠償責任保険中央審議会
12月3日：第59回中央環境審議会動物愛護部会に佐伯理事が出席
12月7日：産業動物獣医師確保に係る懇談会に、藏内会長、境副会長兼専務理事、酒井顧問が出席
12月10日：令和3年度第2回国際獣疫事務局（OIE）連絡協議会に境副会長兼専務理事が出席
12月15日：愛玩動物看護師法及び改正動物愛護管理法に係る説明会に境副会長兼専務理事が出席
12月16日：令和3年度中間監査
：第5回理事会
12月17日：肉用牛流通多様化推進委員会に境副会長兼専務理事が出席
12月20日：第6回「第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」組織委員会（WEB併用）に砂原副会長、村中副会長、境副会長兼専務理事、酒井顧問が出席
12月22日：令和3年度第9回業務運営幹部会

案内

第21回 アジア獣医師会連合（FAVA）大会の開催

2022（令和4）年11月11日（金）～13日（日）の3日間、「第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」を福岡県福岡市の「ヒルトン福岡シーホーク」にて開催いたします。

本大会では、ノーベル賞受賞者の記念講演を計画しているほか、海外から著名な講師を招聘したシンポジウム等を数多く開催する予定です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。



紹介

◎新刊

必読 よくわかる「よりよい消毒」

本書は、国内外の豊富な科学的研究の成果に基づき、消毒の基本的な考え方をはじめ場所や物に合わせた具体的かつ適切な消毒の実施方法について解説しています。

農場での消毒にあたり責任をもって実施する立場にあたる獣医師、畜産技術者の方々に広くお読みいただける1冊です。

著者：関 令二

判型：A4

ページ：132頁

定価：1,430円（税込み）※送料別

問合せ先：公益社団法人 中央畜産会
経営支援部（情報）

〒101-0021

東京都千代田区外神田2-16-2

第2ディアイシービル9階

TEL 03-6206-0846

FAX 03-5289-0890

E-mail : book@jlia.jp

日本獣医師会雑誌投稿原稿の募集について

日本獣医師会においては、構成獣医師をはじめ多くの獣医療関係者等から日本獣医師会雑誌への投稿原稿を広く募集しております。

なお、投稿に際しては、「日本獣医師会雑誌投稿規程（本誌第74巻第12号769頁に掲載）」を参照願います。



宮崎県 職員(獣医師)

募集

申込要件

- 申し込み時点で獣医師免許取得者であること
- 令和4年4月1日現在で満60歳未満であること
- 県内どこでも勤務できること

採用予定日

- 令和4年4月1日以降
本県の状況及び応募者の都合に応じて、随時採用する場合があります。

所属先は

- 家畜保健衛生所
- 食肉衛生検査所
- 保健所
- 動物愛護センター
- 畜産試験場
- 衛生環境研究所
- 本庁

等になります。

※職場見学も可能ですので、お問い合わせください。

選考方法

- 面接試験
面接日時及び場所は、令和4年2月10日までの間で、応募者と相談の上決定します。

募集期間

- 令和4年2月3日まで
合格者が採用予定数に達した時点で募集を締め切る場合があります。

宮崎の畜産を一緒に
盛り上げましょう！

ブロイラー飼養羽数 全国1位
豚飼養頭数 全国2位
肉用牛飼養頭数 全国3位

(平成31年2月1日現在)



お問い合わせ

宮崎県 総務部 人事課
TEL: 0985-26-7009(直通)

農政水産部 畜産新生推進局 家畜防疫対策課
TEL: 0985-26-7139(直通)
E-mail: shinsei-kachikuboeki@pref.miyazaki.lg.jp

住所: 〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号

宮崎県職員獣医師

検索

クリック

県庁HPに採用試験案内の詳細を掲載しています。

令和3年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会プログラム (オンデマンド配信)

[令和3年12月1日現在]
※内容は変更になることがあります。

シンポジウム 「兵庫の至宝『但馬牛』と世界の舌を魅了する『神戸ビーフ』 ～改良と美味しさへの挑戦～」

日本産業動物獣医学会

但馬牛の歴史	野田昌伸 (兵庫県立但馬牧場公園但馬牛博物館)
但馬牛肥育における飼養技術の開発	正木達規 (兵庫県立農林水産技術総合センター 畜産技術センター)
新たな肉質評価技術を活用した但馬牛の改良	小浜菜美子 (兵庫県立農林水産技術総合センター 北部農業技術センター)
但馬牛改良の変遷 ～血統・ゲノム情報の活用～	大山憲二 (神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター)
神戸ビーフのブランドの歩みと取組み強化	谷元哲則 (神戸肉流通推進協議会)

教育講演 「臨床家が解説する、現場で実践したい牛の外科『マル秘』テクニック」

日本産業動物獣医学会

黒毛和種牛の骨折に対する即時重合レジンによる創外固定	久野尚之 (NOSAIひょうご 南あわじ家畜診療所)
牛の第一胃鼓脹症に対する注射器製フィステルを用いた第一胃瘻管形成術	近藤 直 (ヴェックス・北海道)
ユトレヒト変法による乳牛の第四胃左方変位整復術	森田 稔 (NOSAI 道央 名寄家畜診療所)
肥育去勢牛の下部尿路閉塞に対する会陰部尿道瘻管形成術及び下腹部膀胱瘻設置術	内山健太郎 (内山家畜診療サービス・佐賀県)

シンポジウム 「夜間小動物診療施設における救急疾患への対応」

日本小動物獣医学会

急性胃拡張胃捻転症候群	神津善広 (北摂夜間救急動物病院)
急性肺水腫	川瀬広大 (札幌夜間動物病院)
てんかん重積の救急対応	中村 俊 (どうぶつの総合病院 専門医療&救急センター)
[総合討論]	

シンポジウム 「獣医師の幹細胞治療について改めて考える」

日本小動物獣医学会

臨床現場における間葉系幹細胞の使用と課題	横山篤司 (さくら動物病院 長野どうぶつ眼科センター 長野どうぶつ再生医療センター)
「動物再生医療技術研究組合」の取組みで見えてきたもの	福田 威 (動物再生医療センター病院)
本邦初の動物用再生医療等製品「ステムキュア®」について	上田忠佳 (DSファーマアニマルヘルス/池田動物細胞医薬センター)
獣医領域における再生医療等製品の法的位置付けと今後の課題	佐藤耕太 (農林水産省動物医薬品検査所)
犬と猫で再生医療を実施する上で把握しておくべき指針と留意点	枝村一弥 (日本大学)
[総合討論]	

シンポジウム 「注目すべき衛生害虫 —その生態や防除について—」

日本獣医公衆衛生学会

保健所での相談事例から見たトコジラミ発生の実態と課題	矢口 昇 (豊島区池袋保健所生活衛生課)
ヒアリ侵入の現状 —高まる定着の危機—	橋本佳明 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所/兵庫県立人と自然の博物館)
感染症を媒介するマダニの生態と同定法	山内健生 (帯広畜産大学環境農学研究部門)
衛生害虫の殺虫剤抵抗性の現状とその機構	葛西真治 (国立感染症研究所昆虫医学部)

シンポジウム 「災害時に注意すべき健康危害 —避難所における食中毒・栄養管理と感染症の制御について—」

日本獣医公衆衛生学会

災害時の避難所における食中毒予防	今川正紀 (厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課食中毒被害情報管理室)
避難所における食品衛生 ～救援物資が原因の事件とその検証～	岡本裕行 (京都府山城北保健所)
災害時の栄養・食生活支援について	久保彰子 (女子栄養大学)
災害後の感染制御と環境感染学会 DICT の役割	櫻井 滋 (静眠堂メディカルデザイン SMD)

シンポジウム 「人と動物のコロナウイルス感染症」

(公社)日本獣医学会

新型コロナウイルスの変異株はなぜ出現してくるのか 水谷哲也 (東京農工大学農学部附属感染症未来疫学研究センター)
伴侶動物のコロナウイルス感染症 前田 健 (国立感染症研究所獣医科学部)
家畜のコロナウイルス感染症 鈴木 亨 (農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門札幌拠点)
鶏のコロナウイルス感染症 (伝染性気管支炎) 真瀬昌司 (農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門)
日本のコウモリコロナウイルス 村上 晋 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

シンポジウム 「希少鳥類における鳥インフルエンザウイルス感染対策の確立」

(公社)日本獣医学会

ヒト用抗インフルエンザ薬の鳥類における有効性について 迫田義博 (北海道大学)
希少鳥類の生息環境における鳥インフルエンザウイルスサーベイランス 笛吹達史 (鳥取大学農学部共同獣医学科)
HPAIV の希少鳥類への感染状況について 小澤 真 (鹿児島大学共同獣医学部)
希少鳥類の培養細胞を活用した HPAIV 病原性の予測 大沼 学 (国立環境研究所)
〔総合討論〕

シンポジウム 「ここまでわかった、人と動物における新型コロナウイルス感染症 —コロナ禍におけるペットとの付き合い方—」

(公社)日本獣医師会

COVID-19 の現在及び今後の動向 松本哲哉 (国際医療福祉大学)
COVID-19 ワクチンの効果と安全性 岩田 敏 (国立がん研究センター中央病院)
ペットと COVID-19 感染症の実態 桃井康行 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
小動物臨床の現場における COVID-19 に関連した取組み 中川清志 (東京都獣医師会)
〔総合討論〕

シンポジウム 「新型コロナウイルス感染症・動物の感染症と獣医師

—獣医師の職場からの報告と獣医師全体のメンタルヘルスのために—

(公社)日本獣医師会

新型コロナウイルス感染症と獣医師の関わり 白岩利恵子 (岩手県獣医師会食鳥検査センター所長)
動物の感染症対策を担う獣医師の今 佐藤則子 (茨城県南家畜保健衛生所所長)
牛の健康から人の健康へ —社会と健康の関係— 金森万里子 (東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻博士課程)
組織公正性の高い職場作りを —獣医師の職場環境や仕事内容を再考する— 谷 千賀子 (畜ガールズ(産業動物に興味のある女性の会)会長)
これまでのシンポジウムのご講演から 未 定 (—)

シンポジウム 「わが国の獣医学教育改革の動向」新型コロナウイルス感染症・動物の感染症と獣医師

全国大学獣医学関係代表者協議会

【獣医学教育の国際認証と分野別評価】

大学基準協会による分野別第三者評価の目的と進捗状況 中山裕之 (東京大学名誉教授)
欧州獣医学教育機関協会の認証取得の意義について 堀内基弘 (北海道大学獣医学部/帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程)
佐藤晃一 (山口大学/鹿児島大学共同獣医学部)

【獣医学教育支援機構の役割】

発足から現在に至るまでの経緯 高井伸二 (獣医系大学間獣医学教育支援機構)
共用試験の実施状況と課題 山岸則夫 (大阪府立大学)

■ 農場管理専門獣医師等認定・活動支援事業研修会

(公社)日本獣医師会

■ 地区学会長賞受賞講演：今年度の獣医学術地区学会において「地区学会長賞」を受賞した演題約 50 題を配信

■ 日本獣医師会獣医学術賞「獣医学術奨励賞」受賞者記念講演

日本獣医師会雑誌令和元年 8 号～令和 3 年 7 号までに掲載された論文の中から選考された、「令和 3 年度日本獣医師会獣医学術賞『獣医学術奨励賞』」を受賞した業績による記念講演 (3 題) を配信

配信期間：令和 4 年 1 月 21 日(金)～2 月 6 日(日)

- 本大会の参加登録料 (視聴料) は無料です。
- 本大会のご視聴は、日本獣医師会 HP のトピックス欄から大会専用 HP にお入りいただき、参加登録フォームからお申込みください。



募 集

日本獣医師会 第34回日本動物児童文学賞作品募集要項

～人と動物との共存等を扱った作品の募集～

1 名 称

第34回日本動物児童文学賞

2 目 的

この事業は、動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年10月1日法律第105号、以下「動物愛護管理法」という。）の目的及び基本原則等の趣旨に則り、次代を担う子供たちが正しい動物福祉・愛護の考え方を身に付けることができるよう、動物の福祉・愛護に関するより良い文学作品を広く募集し、選考・審査の上、入賞作品を日本動物児童文学賞として決定し表彰・公表するとともに特に優れた作品を普及させることにより、児童の健全な育成と豊かな人間性を涵養することを目的として実施する。

3 募集期間

令和4年1月1日(土)～4月20日(水)（※当日消印有効）

4 募集内容

読者対象を満6歳以上12歳までの学齢児童とし、動物の虐待防止、動物の適正飼養、人と動物のふれあい、人と動物との共生及び動物福祉・愛護等を扱ったもので未発表の作品であること。（ただし、商業出版を目的としない同人雑誌等への発表は差し支えない。）

5 応募規定

- (1) 原則としてワープロ原稿とし、原稿データを郵送または電子メールへの添付により『10 応募先』に送付すること。手書き原稿も受け付けるが、その場合は、丁寧な字ではっきりと書くこと。
- (2) 原稿は、A4判横向き〔43字×28行〕を縦書きで作成すること。本文（あらすじを除く）の総枚数は13枚以上20枚以内、フォントサイズ（文字の大きさ）は12ポイントとする。ただし、手書き原稿の場合は、400字詰原稿用紙を縦書きで使用し、本文の総枚数40枚以上60枚以下とする。
- (3) 最初の1枚は応募用紙とし、①タイトル、②応募者の氏名（フリガナ）、③年齢、④性別、⑤職業、⑥郵便番号、⑦住所、⑧電話番号／FAX番号、⑨E-mailアドレス、⑩主要登場動物、⑪原稿（応募用紙、あらすじを除く）の総枚数、⑫本賞の作品募集を何で知ったかを明記すること。

2枚目に、400字以内で作品のあらすじを記載

すること。

本文は3枚目から開始し、各ページにページ番号を記載すること。

- (4) 原稿は、本会にて複写するため、ホッチキスやとじ紐などで綴じないこと。
- (5) 応募者の個人情報の取扱いは以下のとおりとする。応募者及び、応募者が未成年の場合その保護者は、内容を確認し、同意したうえで応募すること。
 - ① 個人情報保護管理者
公益社団法人 日本獣医師会 事務局長
 - ② 利用目的
応募者の統計的分析、作品の審査、審査結果の連絡など「第34回日本動物児童文学賞」に係る事務処理
 - ③ 個人情報の第三者提供
本人の個人情報を第三者に提供しない。
 - ④ 個人情報の委託
「第34回日本動物児童文学賞」に係る事務処理業務を遂行するために必要な範囲内で業者に委託する
 - ⑤ 個人情報に係る問合せ窓口
個人情報に係る問合せは下記『11 問合せ先』に示す連絡先の個人情報保護担当者まで連絡できる。

尚、個人情報を本会へ提出することは任意だが、必要事項を提出しない場合、適切な選考・審査ができない場合がある。

6 応募資格

プロ・アマチュアを問わず、年齢15歳以上の者とする。ただし、過去の本賞における大賞受賞者は対象外とする。

7 賞

日本動物児童文学大賞 1作品 = 30万円
日本動物児童文学優秀賞 2作品以内 = 20万円
日本動物児童文学奨励賞 5作品以内 = 5万円

※副賞は所得税法に則り源泉徴収の対象です。

大賞・優秀賞受賞作品は日本動物児童文学賞受賞作品集に収録され広く配布されるとともに、本会ホームページに公開されることがある。

なお、大賞及び優秀賞を受賞した場合には、受賞作品の作者は挿絵を3枚以上本会へ提供すること。

8 発表

令和4年9月下旬頃に、本会のホームページ上で受賞作品を掲載する。

9 主催

公益社団法人 日本獣医師会

10 応募先

応募原稿受付専用メールアドレス：

bungaku@nichiju.or.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階
公益社団法人 日本獣医師会 宛て

- *応募の際は、郵送の場合は封筒に、電子メールの場合は件名(タイトル)に、「第34回 日本動物児童文学 応募作品 在中」と記入すること。
- *上記メールアドレスへ原稿を送った場合、応募受付の確認メールが4営業日以内に届かなかった際には、『11 問合せ先』に連絡すること。
- *データ原稿と紙面の原稿を重複して送付しないこと。

11 問合せ先

公益社団法人 日本獣医師会事務局

☎03-3475-1601

※応募作品の内容訂正、審査状況に関する問合せは不可

12 著作権

- (1) 入賞作品の著作権は著作者に帰属するものとする。ただし、本事業に伴い実施する日本動物児童文学賞入賞作品集への掲載及び本会ホームページへの掲載並びに本会の事業において特に必要な場合には、本会はこの作品をいつでも無償で利用できることとする。
- (2) 著作者が入賞作品を出版等する場合には、日本獣医師会日本動物児童文学賞入賞作品である旨を明記することとする。

13 その他

- (1) 応募作品は返却しない。
- (2) 「日本動物児童文学賞入賞作品集」は切手310円分(送料)を同封の上、本会事務局まで申し込めば希望者に送付する。(在庫数に限りがある。)